



霜田誠二ステップスギャラリー二年ぶりの個展である。今回も霜田はパフォーマンスを行ったのであるが、私は立ち会うことができなかった。第二子が誕生したとしても怠慢をこの場を借りてお詫び致します。

言い訳ではないのだが、霜田の芸術を理解するためにはパフォーマンスを見ることが不可欠ではないと私は考えている。他のパフォーマーやダンサーは別である。霜田だけが特別だ。それだけ、霜田の絵画は突出している。霜田の絵画はパフォーマンスと同じなのだ。

今回も霜田はステップスの壁面一杯に、小型の作品を数多く展示した。吉岡のブログによると 50 点だそうである。よく追うと、猫、象、キリン、雀、ゴジラなどに分類される。このモチーフを、霜田は様々に描き分けている。それはマトリクスのヴァリエーションではない。上の図版の通り、それぞれがオリジナルで有り得るのだ。ここに、霜田の芸術の特徴がある。これこそ、パフォーマンスの方法論といってもいい。そして霜田は、描く楽しさや絵としての魅力ではなく、あくまで芸術を追い求めている。

